

題名：横浜労災病院の一般病棟入院中に ICU へ転室となった患者さんへ

当院では、下記の臨床研究を当院倫理委員会の審査を経て病院長の許可のもと行っています。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、あなたの診療情報や検査などで残った検体の下記の研究への利用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして研究に利用させていただきます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用するまたは提供されることを希望されない場合、また研究に関する質問等ございましたら、下記に記載している問合せ先へご連絡下さい。利用を希望されないことが今後の診療に何らかの影響を与えることは一切ありません。

研究課題名 (承認番号)	病棟急変後に ICU 入室した患者の耐性菌リスクの検討 (-)
当院の研究責任者 (所属)	光田慧吾 (横浜労災病院 中央集中治療部)
他の研究機関および 各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	抗菌薬の適正使用は耐性菌出現を防ぐために重要です。 ICU 入室患者において、耐性菌リスクを有さない患者からの耐性菌検出の可能性は極めて低く、経験的狭域抗菌薬による加療が行えるとされています。 一方、病棟急変患者で ICU に入室する患者では入室前より抗菌薬使用を行ってることが多く、それだけで耐性菌リスクとなるため必要以上に広域抗菌薬が必要となっている可能性が存在します。本研究により耐性菌リスクを有するとされてきた患者さんを ICU 入室前および入室後の抗菌薬使用状況により層別化を行うことで広域抗菌薬が必要となる患者さんを抽出することを目的としています。
研究の方法 (利用する試料・情報)	研究実施期間：2024 年 9 月～2027 年 3 月 当院 ICU に病棟急変により入室した患者さんが対象となります。 年齢、性別、身長、体重、ICU 入室理由、ICU 滞在日数、ICU や 28 日後の死亡の有無、在院日数、転帰、感染症の有無、感染部位、細菌培養検査結果、特定の既往歴 (COPD, 糖尿病、慢性腎臓病、悪性腫瘍、抗菌薬に対するアレルギー) 重症度スコア (SOFA, APACHE2)、ICU 内における抗菌薬以外の加療 (挿管、気管切開、胸腔穿刺、人工呼吸、NPPV、HFNC、CVC 挿入、PICC 挿入、腎代替療法、IABP 使用、V-A ECMO 使用、V-V ECMO 使用、TTM 施行、経腸栄養の有無、TPN の有無)、在院日数、人工呼吸器不使用期間
利用する試料・情報の 該当期間	2022 年 10 月～ 2024 年 7 月
試料・情報の他の 研究機関への提供	他の研究機関への情報提供の予定はありません

および提供方法	
個人情報の取り扱い	利用する試料・情報から、氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除いたします。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：045-474-8111(代表) メールアドレス：kenkyu@yokohamah.johas.go.jp 担当者：光田慧吾（所属：中央集中治療部）
備考	